

商店街活性化で地域も明るく

ーストーリーターズー

代表者 高木結葵（経済B 3年）
構成員 安部湧豊（経済B 3年） 今野歳三（経済B 3年） 川平日菜（経済B 3年）
水野椋太（経済B 3年）

1. 本プロジェクトについて

私たちは、防府市の天神町銀座商店街の賑わいを取り戻し、防府市の活性化に貢献することを目的に「商店街活性化で地域も明るく」というスローガンのもと、約7か月活動してきました。商店街の活性化のためには、地域の関係者との協力が不可欠であり、商店街における問題点やニーズを把握することが重要であるため、私たちは、商店街の関係者にインタビューを行い、商店街の現状を把握したうえで、イベントを企画しました。その結果、商店街の課題や必要なサポートを認識したうえで、具体的な解決策を模索していきました。

2. プロジェクトの概要

2. 1 商店街の関係者へのインタビュー

まず、商店街の課題を明確にするために、商工会議所の方や商店街の店舗オーナーの方々にインタビューを行いました。商工会議所の方へのインタビューでは、商店街の収益性の問題が浮かび上がりました。新規出店者が店舗を開くためには、高額な内装費用が必要で、その負担が大きな課題となっていることが分かりました。出店には、内装費用として500万円から1,000万円が必要で、その費用を5年から10年で回収しなければならないため、出店を躊躇する事業者も多いということも分かりました。しかし、新規で出店された店舗の中には、「よりみちCafé fucali」のように、オープンしてから10年以上経った現在でも売上が落ちず、成功している事例や、「ほふほふ」のように商業目的ではなく、コミュニティの場として店舗を運営しているお店もあるということが分かりました。次に、先ほどのインタビューで知ることができた、「よりみちCafé fucali」の方や「ほふほふ」の方にインタビューを行い、商店街でのイベントを行ううえで必要なアドバイスを得ることができました。例えば、イベントを開催する際には、事前に各店舗に挨拶に行くことが重要であるということが分かりました。

2. 2 フォトスポットの設置

以上のインタビュー等を通して、私たちは、商店街に新たな集客を促すためのアイデアとして、「フォトスポット」を商店街に設置することにしました。当初は、商店街の建物の外に設置する予定でしたが、建物の外では、毎回フォトスポットを建物の中に収める必要があるなど、様々な問題があったため、建物内にフォトスポットを設置する方向性で企画しました。最終的に、商店街内の「種田家具防府店人形館」（以下、人形館と表す）をお借りすることができ、人形館内の約6畳分にフォトスポットを作成しました。フォトスポットを作成するにあたり、事前に建物内の寸法を測り、どのようなデザインにするのかをメンバー全員で考えました。考えたデザインは、まず床に白い木目のフロアタイルを貼り、天井には約50束のドライフラワーと風船を吊り下げて、壁にカーテンを貼るというもので、ドライフラワーと風船をひもで縛って、脚立を使って天井に吊り下げるという作業が特に大変で、最初はどうしても上手く吊り下げられるかがわからず、試行錯誤しながら進めていきました。

2. 3 サービス券配布に向けての取り組み

このプロジェクトでは、当初、フォトスポットに加えて商店街で使えるサービス券を配布しようと考えていました。具体的には、イベント期間にフォトスポットで写真を撮ってくださった方に、その撮った写真を商店街の店舗で会計時に提示してもらうことによって、店舗に応じたサービスを受けられるという仕組みで行おうと企画していました。しかし、このサービス券を出しても現在の商店街の店舗に集客力がないため、サービス券が無駄になってしまうのではないかなど、サービス券の必要性を十分に商店街の店舗さんたちに説明することができず、最終的にサービス券の協力店舗は0店舗となってしまう、フォトスポットのみでイベントを行うことに決めました。

2. 4 イベントの開催

イベントは、11月16（土）、17（日）、20（水）、23（土）、24（日）日の5日間行いました。開催期間をこの5日間に決めた理由は、16、17日には、「すごいぞ！防府秋の大イベント」が開催され、23、24日には防府市の大きな祭りである「裸防祭」「天神おんな神輿」が開かれたというように、防府市でのイベントが立て続けに行われた週であり、より多くの集客を見込めると考えたためです。また、イベントと同時に商店街の交通量調査も行ったため、週末だけでなく平日の交通量も記録したかったため、平日である20日にもイベントを開催しました。フォトスポットの来客数（人形館内に入って実際にフォトスポットで写真を撮ってくださった方の数）は、16日は12人、17日は16人、20日は2人、23日は44人、24日は7人でした。23日は防府市の中でも大きな祭りが行われたため、その日の通行者数は平日である20日の6倍以上もありました。（図1）さらに、フォトスポットの来客者には、親子連れが多い印象で、実際に、全28組のうち、19組が親子連れでした。イベント時には、ポスターを掲示しながら呼び込みを行っていたのですが、ポスターに書いている情報が不十分であることなどが原因で、なかなか呼び込みが上手くいかなかったため、通行人がフォトスポットに立ち寄りたいたいと思えるような工夫が必要だったと感じました。

3. まとめ

12月6日にフォトスポットの片づけを行って私たちの主な活動は終了しました。今回のフォトスポットを作成するうえで、商店街の理事長である種田さんが、人形館を私たちに活動場所として提供してくださり、そのうえ好きに使って良いし、片付けもそんなにする必要はないとおっしゃっていただき、とても活動しやすかったのも、想像以上のフォトスポットができたと感じています。また、脚立や掃除道具もお借りすることができたので、その分子算をドライフラワーに充てることができました。さらに、商工会議所の方や商店街の店舗の方々が、私たちのために時間を作って商店街に関するさまざまな情報を教えてくださったことで、イベント企画をよりスムーズに行うことができたし、私たち自身の勉強にもなりました。イベント時に同時に行った交通量調査に関して、商店街や防府市への少しの恩返しとしてお渡しすることができたのはとてもよかったと思っていますし、その交通量調査が今後の防府市の発展の手助けになれば良いと思います。

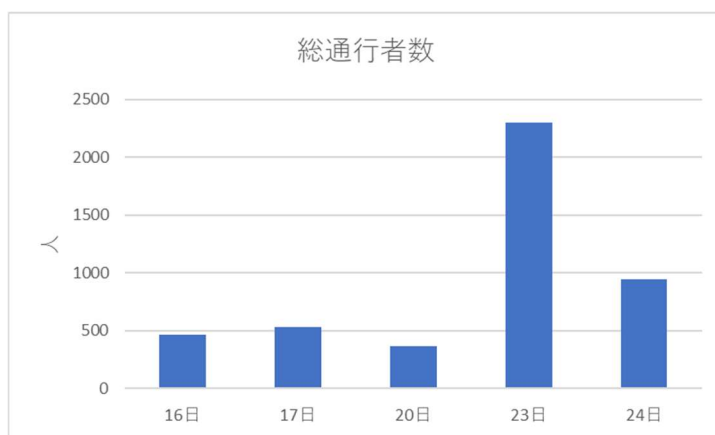


図1 イベント開催期間の商店街通行者数



フォトスポットのデザインおよびイベント時の様子